

コロナ禍における地域福祉活動状況調査

(社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会)

【調査の趣旨】

コロナ禍により、地域福祉活動は大きな影響を受け、感染対策を講じて形態や方法を一部変更して活動を継続する、あるいはリスクを考慮し中止を選択しているところもある。そのようななかで、活動状況の推移を定期的に集約・共有することで、各区社会福祉協議会による活動支援と、各地域における推進の一助となるよう、定期的に調査を実施する。(実施主体:大阪市社会福祉協議会)

【調査開始時期】

令和3年10月開始(以降、2か月に1回の頻度で偶数月末の状況を集約)

※本資料では令和4年10月末までを対象として整理・分析。令和5年度末に報告書作成予定

【調査対象活動】

大阪市内の「食事サービス」「ふれあい喫茶」「子育てサロン」「いきいき百歳体操」
「こどもの居場所活動」「社協が関わるその他の居場所活動」

※実施主体は問わない。おおむね2か月に1回以上の活動を調査対象とする

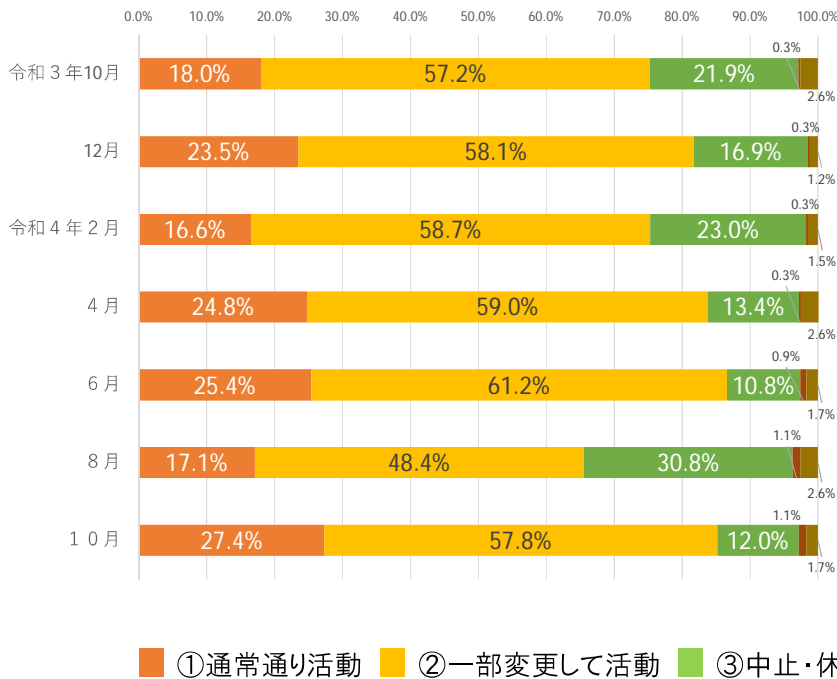
【調査方法】

各区社会福祉協議会による把握状況を所定のシートに記入し、基準時点で大阪市社協に提出する

調査の背景

- | | |
|--------|--|
| 令和2年度 | ・「コロナの中でもつながる方法」等を発信
・「外出自粛高齢者・障がい者等見守り支援事業」実施など、区ごとの活動を推進 |
| 令和3年度～ | ・大阪府福祉基金助成金事業を通じて「ICTでもつながりづくりプロジェクト」推進(令和3・4年度)
・「コロナ禍における地域福祉活動状況調査」実施(令和3年10月から隔月で実施)
→ 広報誌・各種会議等で状況報告・発信 |

食事サービス



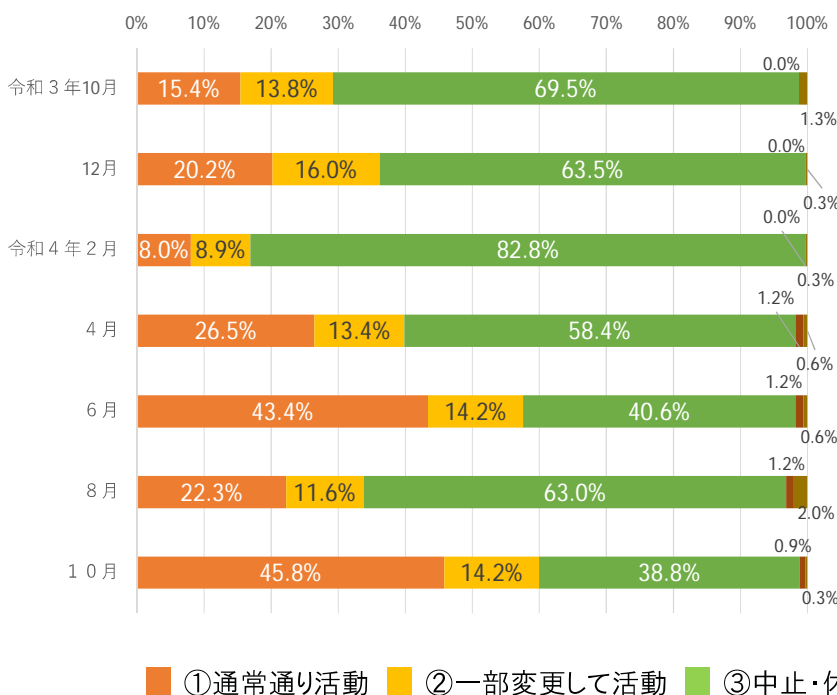
直近の実施割合 **85.2%**

(令和4年10月末:通常通り+一部変更)

▶一部変更して活動(配食・テイクアウトなど)が早い段階から定着している。一方で、席の配置等を工夫して、会食を実施している地域もある

▶令和4年8月には感染拡大等の影響により実施率が一時低下したが、10月には再度上昇している

ふれあい喫茶



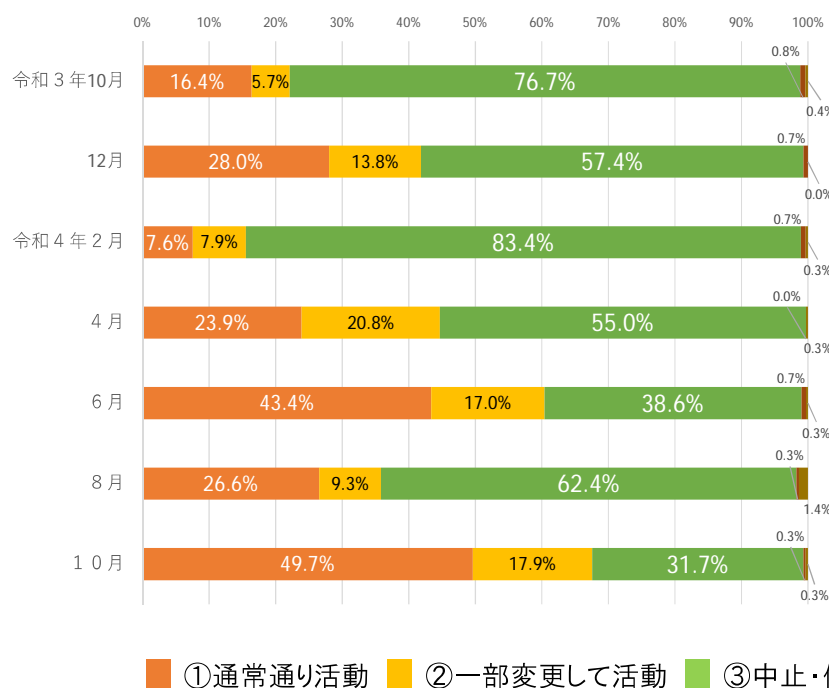
直近の実施割合 **59.8%**

(令和4年10月末:通常通り+一部変更)

▶感染拡大状況と連動して、活動割合が大きく増減。月別の差はあるが、昨年度の後半と比較すると総じて再開数が増えてきている

▶地域によっては、時間帯を区切った実施、予約制、人数制限、屋外実施などの工夫が見られる

子育てサロン



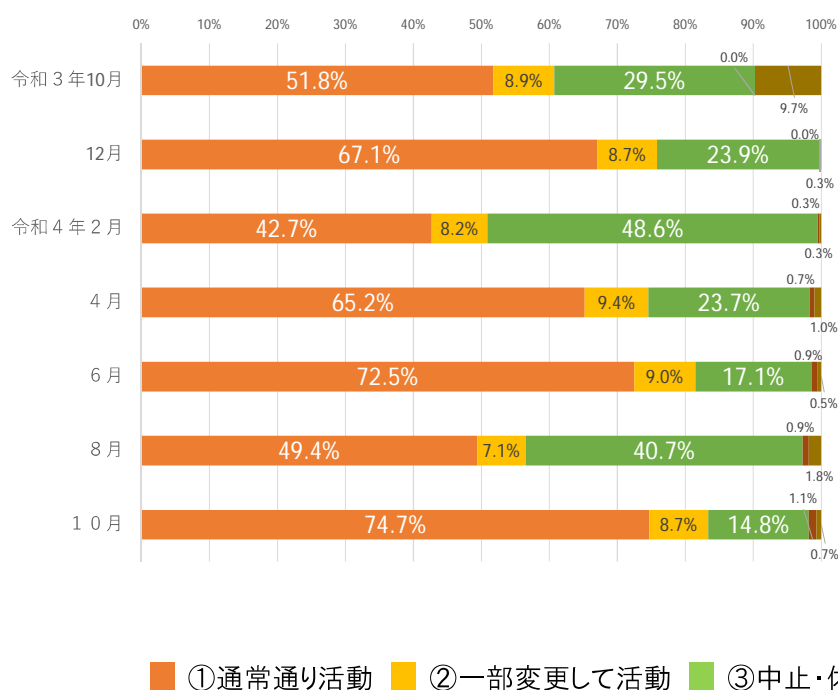
直近の実施割合 **67.6%**

(令和4年10月末:通常通り+一部変更)

▶感染拡大状況と連動して、活動割合が大きく増減。月別の差はあるが、昨年度の後半と比較すると総じて再開数が増えてきている

▶地域によっては、予約制、人数制限、開催時間の短縮、広い会場への変更などの工夫が見られる

いきいき百歳体操



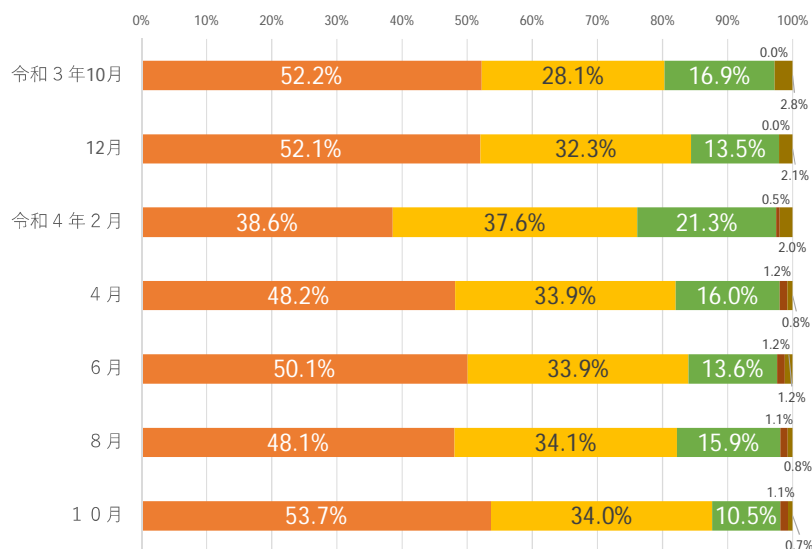
直近の実施割合 **83.4%**

(令和4年10月末:通常通り+一部変更)

▶昨年度から総じて実施率が高い。感染拡大時には中止が増えることもあるが、現在、調査対象活動のなかで「通常通り活動」がもっとも多く、コロナ禍でも形を変えずに継続しやすい活動と言える

▶地域によっては、2部制での実施、参加者制限などを取り入れている

こどもの居場所活動



直近の実施割合 **87.6%**

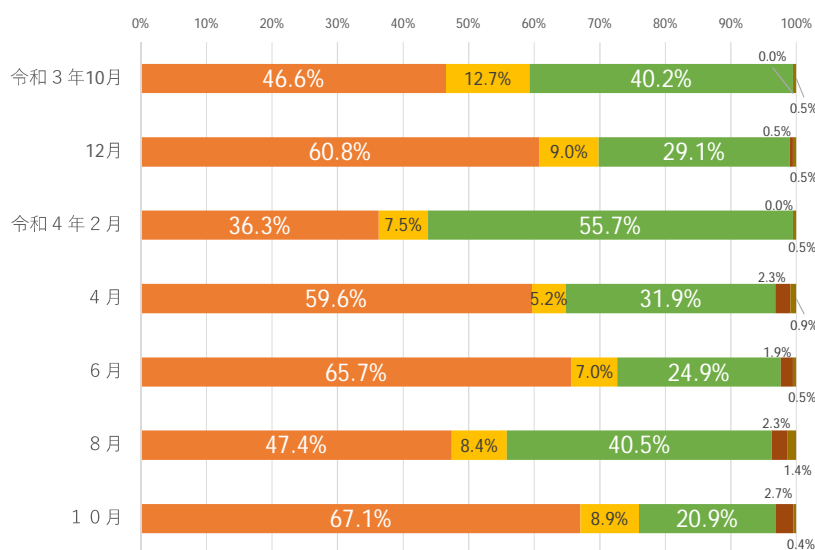
(令和4年10月末:通常通り+一部変更)

▶調査期間全体を通して、他の活動と比べて大きな変動がなく、何らかの形で実施している割合は常に75%以上である。また新規立上げで活動数自体が増加傾向にある

▶通常通り(こども食堂・学習支援等)と一部変更(お弁当・食材配付等)に二分されている傾向がある

■ ①通常通り活動 ■ ②一部変更して活動 ■ ③中止・休止 ■ ④終結 ■ ⑤その他

社協が関わるその他の居場所活動



直近の実施割合 **75.9%**

(令和4年10月末:通常通り+一部変更)

▶内容は「コミュニティサロン」「介護予防・認知症予防の場」「町会やマンション単位の集いの場」「男性の集いの場」「趣味をきっかけとした場」など

▶総じて、感染拡大と連動して増減する傾向が見られる

■ ①通常通り活動 ■ ②一部変更して活動 ■ ③中止・休止 ■ ④終結 ■ ⑤その他